

イ 部隊	
空軍直轄部隊	約 七〇中隊
陸軍協同隊	約 二五中隊
海軍協同隊	約 一五中隊
植民地軍協同隊	約 一〇中隊
計	約 一二〇中隊
ロ 飛行機	
第一線	約 一、二〇〇機
豫備	約 三〇〇機
計	約 一、五〇〇機
ハ 人員	
將校	約 二、〇〇〇
下士官	約 二二、〇〇〇
兵	約 二四、〇〇〇
計	約 二四、〇〇〇

である。

曾て伊國が航空に於て英、佛に比し著しく立後れの状況にありしに拘らず、今日既に英國等先進國を凌駕せんとするの形勢に在りて、過般の伊「エ」紛争に際し、地中海にある英艦隊にとり、大なる脅威

となつたことは吾人の大に参考とすべき所である。

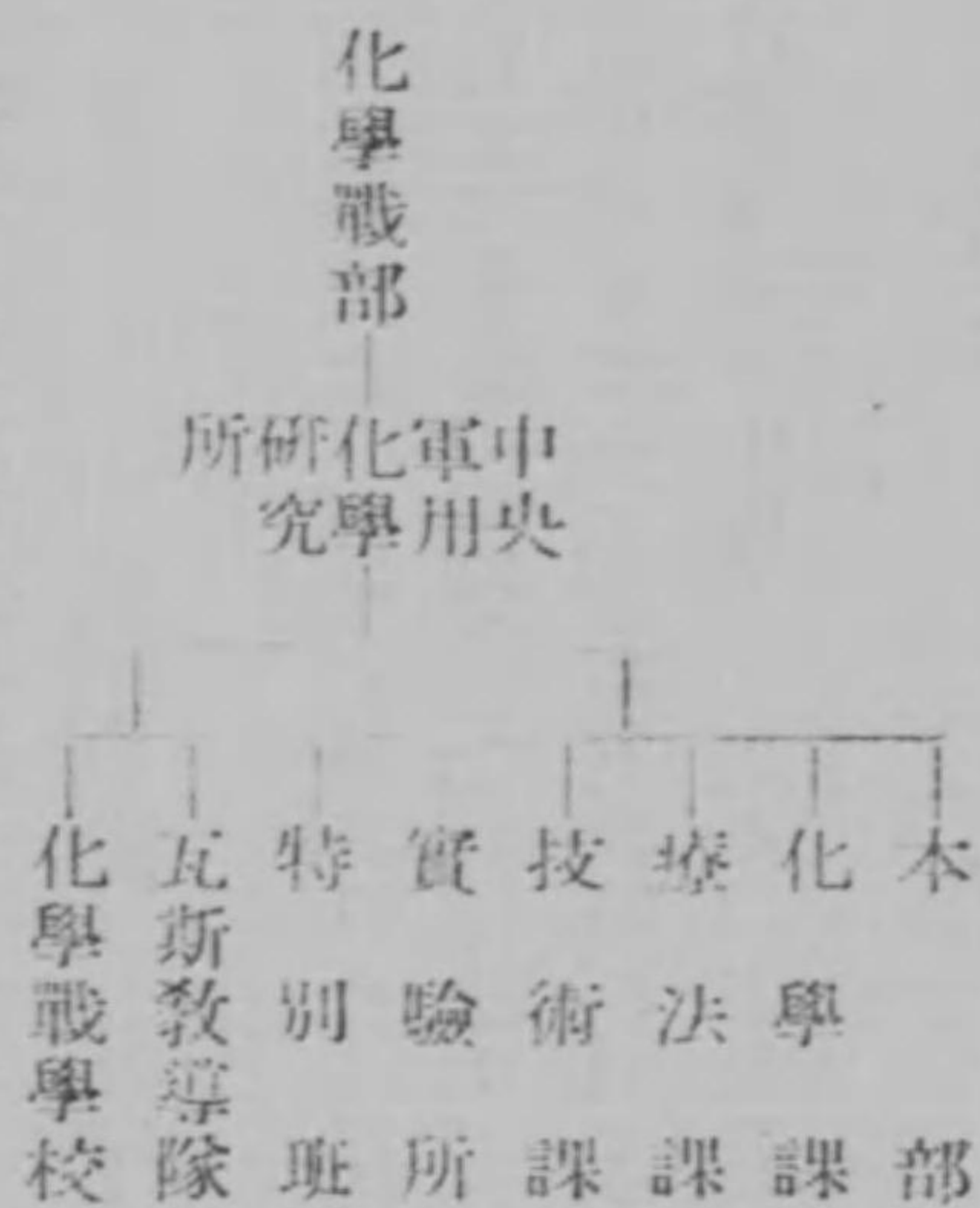
三、民用航空

伊國に於ける民用航空は、他の歐洲列強に比し、從來遅々として振はなかつたが、今や當事者の異常なる努力に依り其面目を一新、飛行機數四四三（一九三五年六月）操縦士數七〇八（一九三二初）民間飛行場數六七〇に達するに至つた。

定期航空路の延長は一九三五年に於て一五、五六一籽に達し、輸送旅客數は一九三四年度に於て約四〇、九三〇人、輸送荷物量は同年度約八八六、一七〇吨である、而して政府の定期航空事業に對する補助金は、初度施設のものを除き、一九三六年度は七千八十萬利である。

第五節 化學戰準備施設

伊國に於ては、將來に残されたる唯一の戦法は毒瓦斯に在りとの議論熾烈にして、熱心に研究を行つて行る。其施設は陸軍大臣に隸する化學戰部ありて、陸、海、空軍の化學戰勤務を統一し、中央軍用化學研究所に於て化學戰攻防に關する事項の研究を行ひ、且教育機關として化學戰學校及瓦斯教導隊を同研究所に附屬して居る。之を表示すれば左の如くである。



尙文部、大藏、國民經濟、交通等の各省に屬して醫學及理化學を研究する諸機關は、軍部の研究、實驗に協力すべきものとして居る。

第六節 國家總動員施設

一、施設

戰爭に必要な機關の編制準備並國家諸機關の協力上最も緊要なる諸問題を審議する爲、國防最高會議を設け、總理大臣を議長とし、外務・内務・大藏・陸軍・海軍・植民・經濟の各省大臣及航空高等委員を議員とするのみならず、軍事參議官會議々長・海軍將官會議々長・空軍總司令官・空軍經理總監も亦此會議に列席して發言し得るの制として居る。

國防最高會議は其審議事項の性質に應じ、左の諸機關中何れかを諮詢機關として利用することになつて居る。

1. 軍事參議官會議
2. 海軍將官會議
3. 航空高等委員會
4. 國家總動員準備委員會

國家總動員準備委員會は、國防最高會議の諮問に基いて戰爭の必要に應ずる爲國家總資源の編成、準備、利用の方法を研究する。委員長は總理大臣の表請に依り勅命せられ、委員は參謀本部長、海軍軍令部長、空軍總司令官、空軍經理總監、伊國國立銀行頭取、國有鐵道總監、國防最高會議事務局長、各省及商船移民の委員會より出す代表者各一名、教育及經濟に關係ある大團體の代表者十一名科學、工業、農業及商業界の權威者十一名から成つて居る。

尙國防最高會議には**同事務局**が附屬せられて居り、總理大臣の命令に基き國防最高會議の議題を整理し、又其決議を關係各部に通報し、且之が實施の責に任ずるものである。

二、法規

國家總動員關係の法律としては、千九百二十四年政府より議會に提案し、翌年六月其協賛を経た伊國國家動員令がある。

本法律は十五箇條より成り其内容は佛國のものと同様であるが、其中主なるものを摘録すれば次の通りであ

- 1. 伊國國家動員は、軍部動員と軍部外動員とに別ち、軍部外動員とは武装團體以外の國家の全勢力を平時組織より戦時組織に移すを謂ふ。
- 2. 軍部外動員實施の爲、政府は必要に應じ国防最高委員會協力の下に關係各國務省に隸屬する左の機關を設け業務を實施す。

イ、軍部及一般國民の需要に應ずる原料品輸送に關する機關。

ロ、軍需品の製造、諸原料品及製作品の蒐集、分配並官私立工場に任ずる機關。

ハ、軍部及一般國民に要する食糧品の蒐集、分配並官私立食糧品工場の監督に任ずる機關。

ニ、内外に對する宣傳、出征軍人並歸國移民の家族の救護、戦争癡疾者の救助、戦争扶助料の支給を擔任する機關。

以上四機關の業務を適當に按配施行する爲管區を分ち、地方委員會を組織し更に之を工業、商業、救護及宣傳の小委員會に分つことが出来る。

更に一九三五年春頃の報道に依れば伊國に於ては經濟省に産業動員局を設けた。

其任務は主要次の通りと報ぜられて居る。

- 1. 料補給の根本計畫及軍需工業生産組織の創立並其發達を期すること。
- 2. 陸海兩軍及航空諸官省と絶えず連絡をとること。

戦争規律に關する法律

一九二五年六月公布の國家總動員法に基き、更に一九三二年一月戦争規律に關する法律を公布した。該法律は

動員に方りて國家内に構成せらるゝ總ての團體、兵役の義務無き總ての市民、兵役の義務あるも何等かの理由に由つて事實上就役しおらざる總ての市民に對し、戦闘員と同様國防に協力すべき義務を賦課せるものである。尙伊國は「ムツソリーニ」の主張せる「國家興隆の基礎は國民に軍人的訓練を附與するに在り」又「國民生活も國民教育も外交政策も皆國防に協力すべきものなり」等の意見に基き國民の軍隊化に邁進し來れるが、其具體化として一九三四年十二月「軍事豫備教育法」、「在郷者軍事教育法」及學校に於ける軍事講座法の三法案議會を通過し一九三五年二月一日より其實施を見るに至つた。

第七節 陸軍及空軍豫算

最近六箇年に於ける豫算總額と陸軍及空軍の豫算とを掲ぐれば、左の通りである。

年 度	豫 算 總 額	陸 軍 豫 算	空 軍 豫 算
一九三一—三二年度	約 二〇、四六四、一九七 <small>千利</small>	約 二、九八九、五一六 <small>千利</small>	約 七五二、八九〇 <small>千利</small>
一九三二—三三年度	約 二〇、九二二、九八九	約 二、九八四、六七一	約 七五四、二〇〇
一九三三—三四年度	約 二〇、六一四、一〇〇	約 二、六二〇、五八八	約 六九五、九四八
一九三四—三五年度	約 二〇、六三六、一〇一	約 二、五二〇、五八八	約 七二〇、〇〇〇
一九三五—三六年度	約 一九、六四五、六六七	約 二、四五九、二六〇	約 八三九、六〇五
一九三六—三七年度	約 二〇、二九一、五四三	約 二、二九一、〇六七	約 九七〇、三九〇

- 伊國陸軍豫算を我が國のものと比較するには、特に左の點に注意を要する。
1. 空軍豫算と陸軍豫算は各獨立して居る。
 2. 憲兵の行政、司法及警察執行費は内務省豫算に計上してある。
 3. 植民地陸軍の費用は、植民省豫算に計上してある。
 4. 護國義勇軍、税關兵團は、陸軍より獨立しあるを以て、其費用は大藏省豫算に計上してある。
- 尙「エチオピア」遠征軍費は約八十億利に達した。

第九章 波 蘭

第一節 概 説

波蘭は東は蘇聯邦に接し、西に獨逸を控へてゐる。東隣蘇聯邦は波蘭にとつては不倶戴天の仇敵關係にあり、而も人も知る如く世界赤化を唯一の國是として軍備の充實擴張に汲々とし、又西隣獨逸は「ヴェルサイユ」條約に不服にして、國境の改訂を強調し、再軍備に關する爆彈的宣言をなして軍備の充實に餘念がない。

波蘭は此兩雄邦の間に介在し國を完うせんがためには、一切を犠牲にして専ら國防に努力せざるを得ざる状態であつて、僅々三千萬の人口を有するに過ぎぬに拘らず、二十七萬の常備軍を擁し、其陸軍費は年々國家總豫算の半近くに達してゐる。

第二節 兵役制度

徴兵制度を採用し、壯丁適齡は二十歳であつて、兵役區分左の如くである。

兵種	役種		現	年	豫備		後	備	役
	一般	兵			年	迄			
騎兵及騎砲兵	二箇年	一箇月	滿四十歳迄	滿五十歳迄					

第三節 兵力及編制

陸軍總兵力は約二十七萬であつて、別に軍隊に準すべき（裝備は寧ろ軍隊に勝る）國境警備隊約三萬、警察隊約三萬二千、税關監視隊約五千六百があり、陸軍は左の如く編制されて居る。

軍團管區司令部	一〇
步兵師團	三〇
騎兵師團	一（三旅團）
獨立騎兵旅團	一二
野砲兵聯隊	三〇
特種砲兵聯隊	二〇
飛行旅團	三
飛行聯隊	六
戰車聯隊	一

第四節 化學戰準備施設

波蘭は世界大戰後の新興國であるが、化學戰に關心深き蘇聯邦と獨國との間に介在し、常に其脅威を受けてゐるので、化學戰に關する施設は小規模乍ら能く完備し、其研究、教育も亦眞摯にして、特

に國民一般に對する瓦斯防護教育に於て見るべきものがある。同國化學戰の施設は概ね次の如くである。

一 軍部の施設

陸軍省兵器局内化學戰課——軍用化學研究所——
化學戰學校
瓦斯教導中隊

二 民間施設

航空化學戰防護協會

會員約四十萬、國民瓦斯防護教育用車輛（鐵道用）約一〇輛及同自動車數十輛、毎年瓦斯防護週刊を設け民衆教育の普及徹底に努めてゐる。

第五節 陸軍豫算

最近五箇年に於ける豫算總額と陸軍豫算とを掲ぐれば左の如くである。

年 度	豫 算 總 額	陸 軍 豫 算
一九三一——三二年度	二、八五六、〇〇〇 <small>千ゾロチ</small>	九〇八、〇二五 <small>千ゾロチ</small>
一九三二——三三年度	二、四五二、〇〇〇	八八六、五二〇
一九三三——三四年度	?	?

一九三四—三五年	二、一三七、六一二	七六一、七〇〇
一九三五—三六年	二、一三二、八六二	七六一、七〇〇

即ち陸軍豫算は國家總豫算に對し毎年三二%乃至三六%を示してゐる。

陸軍豫算を特に老成にしない體裁上、純軍隊と目すべき國家警官隊費及税關監視隊費は、殊更内務省費或は大藏省費に算入しあるを以て、之れをも加算するときは最近四箇年の陸軍豫算は常に國家總豫算の半を占めて居る次第である。

第十章 其他の歐洲諸國

歐洲諸小國特に巴爾幹諸國は、外交的に或は小協商を組織し、或は巴爾幹協商を成形し、或は佛伊大國に結び將又大戰平和條約に依りて其軍備に制限を受けある等の狀況に在りと雖、國土相接し其國の軍備にして缺くる所あらんか直に國防上大なる脅威を受けるを以て、何れの國も皆其國力以上と思はるゝ軍備を所有し而も營々として之が改善進歩に寧日なき有様である。「ムツソリーニ」の所謂「國境の防備全からずして其國に外交なく教育なく藝術なく將又産業なし。故に外交も教育も藝術も將又産業も皆國防を基調として行はるべきものなり。」との言を如實に實行しつゝある觀がある。

一、塙國

塙國は平和條約に依て其軍備を將校以下三萬人に制限せられありしも、其後密に禁を犯して之を三萬八千に増加して居つた。一九三五年は獨逸の再軍備制限に刺戟せられて今日迄の六混成旅團を七師團と機械化師團一及飛行機三百臺に編成替へし、兵員も一躍之を七萬に増加するの計畫を立て著々之が實行中である。

塙國の八師團七萬と謂ふ兵力は固より大陸軍と謂ふこと能はざるも、其總人口六百十七萬、而も國家財政至難にして剩へ多數の武裝團體の現存する状態の下に之を觀察するときは、其國防軍増強の爲の努力推して知るべきである。

二、匈國

此國も平和條約に依り軍備の制限を受けありと雖、七混成旅團・二騎兵旅團を基幹としたものを有

列國陸軍軍備一覽

昭和十一年末調

國名	平時兵員		主要部隊數	摘要
	總數	內譯		
日本	約二十五萬		十七師團	本表の外多數の土匪團ありて軍略の編成に改めらるるが、其兵力は固より算定するを得ない。
中華民國	約二百十萬		二百一十一師團	本表の外多數の土匪團ありて軍略の編成に改めらるるが、其兵力は固より算定するを得ない。
蘇聯	約六十萬	正規軍及民兵軍 基幹部(正規兵) 約百三十萬	正規約七十師團 民兵約二十師團	本表の平時兵員中には空軍部隊のものを含む。
米邦	約三十三萬	正規軍 約二十九萬八千 現在數 約十三萬七千	步兵 九師團 騎兵 三師團	一、正規軍は一九三九年迄には六萬五千に増加せらるるに、比布哇及巴奈馬には駐屯軍法定數は一九二三年に定せられたるが、未だ完成せられてゐる。
英國	約三十九萬	正規軍 約十四萬五千 外に在印度駐屯 正規兵約五萬九千	英本國 五師團 印度 四師團 騎兵五團 正規將兵を基 幹とし、兵を 人を加ふ。	一、大企業を新設し、其地を擴張するに、空軍の整備に力をつくす。二、方軍の善化に力をつくす。三、千者一、九三九年には現役者約一萬七千、予備兵約一萬七千、海兵約一萬七千、陸軍約一萬七千、空軍約一萬七千、計約六萬七千。
佛國	約六十五萬	在本國軍約四十四萬 在海外軍約二十一萬	騎兵 二十師團 步兵 五師團 別動隊 五師團 五師團 兵團 五師團 並に植民地軍部隊 (軍團十二)	一本表の外左の部隊がある。一、團獨立旅團 (人員約三萬) 二、北亞弗利加不正規補助兵約五萬 三、憲兵及遊動憲兵約四萬
獨逸	約六十七萬	正規軍約五十五萬 軍隊類似團體、約十一萬六千	步兵 三十六師團 機械化師團 三師團 獨立騎兵 一旅團 山地狙擊 一旅團 獨立機關銃 九大隊	歐洲最強の國軍建設を企圖し、あるが如くである。
伊國	約三十萬	本國軍	步兵 三十一師團	本表の外空軍約二萬四千を有し、又義勇軍其他の兵力を擁護する。

ギリシヤ	六五、〇〇〇	六、三九四、〇〇〇
トルコ	一四〇、〇〇〇	一三、六四八、〇〇〇
チエコスロバキヤ	一七〇、〇〇〇	一四、四八〇、〇〇〇
ベルギー	九一、〇〇〇	八、一三〇、〇〇〇
オランダ	五八、〇〇〇	七、九二〇、〇〇〇
スウェーデン	一三、〇〇〇	四、〇七七、〇〇〇
リトアニア	一九、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
エストニア	二五、〇〇〇	一、九二〇、〇〇〇
ラトヴィア	二五、〇〇〇	一、九二〇、〇〇〇
エスタニア	一五、〇〇〇	一、一二〇、〇〇〇

國 波	國 伊	國 獨	國
機百七約	機百五千約 (屬所省軍空)	上以機百九千約 (屬所省空航) ふ謂もと機百五千二	
氣 飛 球 行 二 六 大 聯 隊 隊	氣 隊約飛 球 一 行 二 機 〇 中 植海陸空 民軍軍軍 地協協直 軍同同轄 協隊隊部 同 隊 隊 一 隊 一 二 七 〇 五 五 〇	六千偵驅爆 たり一 なるが機保察逐擊 九三 如く有を撃 五 くでをを 年 である。標と 六 して 十二六 月迄に 擴張中 中大 大 整備 隊 隊 隊 せられ	○中隊となる。
	利萬千七億九約 (度年六三一五三九一) (算 豫 省 軍 空)		法 (度年 算)
未 詳	砲 部陣義 野 約 地勇 戰 數 高軍 五 一 射に 十 四 砲 屬 二 〇 司 大 門 令 隊	二十個聯隊以上	
未 詳	右裝甲自動車數 右戰車數 快速戰車大隊 聯隊(六大隊) 約 二〇〇 未 二〇〇 詳 輛 輛	未 詳	右車輛數 約 二〇〇 輛

シシE61

Blank white label on a dark background.